

令和7年
2025年

2月10日
月曜日

第11650号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）

6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



伊藤ハム米久ホールディングスが春の新商品発表会を開催……P2

▶ 伊藤ハム米久ホールディングスが春の新商品発表会を開催①…………… P 2

▶ 牛マルキン12月確定値、肉専用種は北海道のみ交付、豚マルキンは交付なし…………… P 3

▶ 農産物輸出促進対策委員会等合同会議で「稼げる輸出」に向けた第7次提言案示すー自民党…………… P 4

▶ 全肉連・島根肉連主催の神戸枝肉販売会、6年度5回目を開催…………… P 4

▶ [全国の食肉推定在庫・12月]全在庫は前年同月比8・7%増…………… P 5

▶ [食肉家計調査・12月]支出肉類計は1万842円で前年比1・8%増…………… P 6

▶ 全国食肉センター協議会、令和6年度経営者セミナーを実施…………… P 7

▶ 神戸食肉青年会が令和7年新年会を開催、新入会員の加入を報告…………… P 8

▶ 【組織改組・人事異動】スターゼン（4月1日付）…………… P 8

▶ マルイチ産商グループが丸水長野県水畜産事業部を吸収分割、事業承継…………… P 8～9

▶ 【東京食肉卸売市場】牛・豚ともにもちあい…………… P 9

▶ 【大阪市食肉卸売市場】牛全般にもちあい、豚は当面堅調展開続く…………… P 9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]7日……P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]7日…P11

注目のヘッドライン

伊藤ハム米久ホールディングスが春の新商品発表会を開催①

…詳細はP2

[東京支社移転のお知らせ]

当社は2月10日から東京事務所および食肉速報編集部を移転します。移転作業に伴い12日付けは休刊とさせていただきます。（10日午前中は電話・FAXがつかない時間帯があります）
新所在地：〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目14-10
新電話番号：03-6206-0929、新FAX番号：03-6206-0928
（株）食肉通信社 日刊食肉速報編集部



国内で唯一、最大級の食肉総合見本市
第49回 2025食肉産業展
2025 Japan Meat Industry Fair 49th.
肉のサステナビリティとイノベーション
会期◎ 2025年3月11日(火)⇒14日(金)
会場◎ 東京ビッグサイト 東7ホール 主催◎ 食肉産業展実行委員会
後援◎ 農林水産省、厚生労働省ほか
食肉産業展HP ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

伊藤ハム米久ホールディングスが春の新商品発表会を開催①

伊藤ハム米久ホールディングスは7日、兵庫県の西宮工場で春の家庭用新商品発表会を行った。会見には加工食品事業本部の牛丸友幸常務執行役員副事業本部長兼営業本部長(上写真)、青木純一事業戦略統括部マーケティング部長、弥富紀子事業戦略統括部マーケティング部家庭用企画室長、服部剛弘・同商品企画室長らが出席した。

冒頭、牛丸常務が次のようにあいさつを述べた。

世界の情勢は不透明感を増し、海外から驚くようなニュースが日々届いている。国内に目を向けると、エネルギーコストの上昇、人手不足、物流問題、賃上げなどさまざまな課題を抱えている。生活者の世帯収入は改善方向に向かっているが、消費マインドは依然として伸び悩み、節約志向が高まっている。加えて健康志向、簡便化志向、美食志向も高い状況が続く。約3人に1人が65歳以上、約5人に1人が75歳以上という超高齢化社会といわれ、単身のシニア世帯も増加している。当然のことながら、生活スタイルや食に対するニーズは大きく変化している。

内食、中食、外食、さらには家庭用、業務用という垣根がなくなりつつあり、食品スーパーやコンビニエンス・ストア、ドラッグストア、現在ではホームセンターなどでも食品を取り扱うようになってきている。こうした環境の変化は食の多様性にもつながり、新たな価値観や選択肢につながると考えている。

全体の商品戦略として、慣れ親しまれたブランドをしっかりと磨きながら、環境の変化に対応して拡大していくことに軸足を置きつつも、新しいことにチャレンジしていく。特に調理食品では冷蔵、冷凍、常温の温度帯でラインアップを拡充していくことが重要。また、物価が高騰している中、求めやすい商品や毎日の食事作りに汎用性のある商品、家庭で新たなメニューにつながる商品、地球環境に配慮した商品などを伊藤ハム、米久のそれぞれのブランドで提案していく。

また昨日(6日)、大阪・関西万博の大阪外食産業協会(ORA)のパビリオンにおいて、当社が常設出展することを発表した。大豆ミートをベースとして、大



阪らしさや日本の伝統的な食材を加味したハンバーガーなどを販売する。来場者には未来につながる食を体験してもらえと思う。(連載続く)

牛マルキン 12月確定値 肉専用種は北海道のみ交付、豚マルキンは交付なし

農畜産業振興機構は7日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の令和6年度12月分の標準的販売価格および標準的生産費、交付金単価(確定値)を公表した。

肉専用種については、12月の交付となったのは、標準的生産費が標準的販売価格を上回った北海道のみで、肉用牛1頭当たりの交付金単価は、3132・9円となった。なお、石川県、福井県、岐阜県、兵庫県は、標準的販売価格に、都道府県標準的販売価格の標準偏差の2倍の額を加えた額を上回ったため、単独で標準的販売価格の算定を行っている。

交雑種については、標準的生産費が73万4260円となり、標準的販売価格の79万2452円を下回った

ため交付はない。乳用種は生産費が50万5657円となり、販売価格の46万870円を上回り、交付金単価(確定値)は4万308・3円となった。

肉豚経営安定交付金(豚マルキン)の6年度第1～3四半期については、算出した見込みの標準的販売価格が4万6734円となり標準的生産費4万2720円を下回らなかったことから、概算払いはない。

肉用牛1頭あたりの交付金単価の算出結果(全国)

区分	単位:円/頭	
	交雑種	乳用種
標準的販売価格(A)	792,452	460,870
標準的生産費(B)	734,260	505,657
差額(C)=(A)-(B)	58,192	△ 44,787
交付金単価(確定値)	-	40,308.3

※交付金単価は差額に100分の90を乗じた額

肉用牛1頭あたりの交付金単価の算出結果(肉専地域別)

区分	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
標準的販売価格(A)	1,254,273	1,263,141	同左					1,280,008
標準的生産費(B)	1,257,754	1,212,416	1,193,624	1,238,909	1,205,009	1,195,191	1,235,605	1,247,818
差額(C)=(A)-(B)	△ 3,481	50,725	69,517	24232	58,132	67,950	27536	32190
交付金単価(確定値)	3,132.9	-	-	-	-	-	-	-

栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	新潟県
1,280,008	同左								1,294,819
1,252,635	1,261,091	1,256,393	1,236,083	1,248,842	1,247,871	1,194,406	1,227,809	1,217,517	1,199,552
27373	18917	23615	43925	31166	32137	85,602	52,199	62,491	95,267
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

富山県	石川県	福井県	岐阜県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県
1,294,819	1,555,724	1,530,421	1,496,203	1,262,137	同左	1,251,252	同左		1,633,214
1,215,990	1,209,296	1,207,898	1,256,654	1,215,047	1,187,742	1,204,229	1,237,619	1,205,885	1,304,874
78,829	346,428	322,523	239,549	47,090	74,395	47023	13633	45367	328,340
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
1,251,252	同左	1,280,379	同左				1,299,298	同左	
1,219,552	1,201,210	1,227,308	1,205,254	1,211,312	1,203,432	1,203,764	1,227,959	1,212,547	1,201,065
31700	50042	53,071	75,125	69,067	76,947	76,615	71,339	86,751	98,233
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
1,299,298	1,260,529	同左						1,277,090
1,148,949	1,222,663	1,220,191	1,218,568	1,233,903	1,221,382	1,207,987	1,215,203	1,179,782
150,349	37866	40338	41961	26626	39147	52,542	45326	97,308
-	-	-	-	-	-	-	-	-

農産物輸出促進対策委員会等合同会議で「稼げる輸出」に向けた 第7次提言案示す一自民党

政府は1月10日に、第21回農林水産物・食品の輸出国規制への対応などに関する関係閣僚会議を開催。新たな食料・農業・農村基本計画において、“海外から稼ぐ力”の強化を新たな柱として位置付ける必要があるとし、農林水産物・食品の輸出拡大を加速することに加えて、新たに「食品産業の海外展開」「インバウンドによる食関連消費の拡大」を強化することを打ち出している。

これを踏まえ、自民党の総合農林政策調査会・農林部会・農産物輸出促進対策委員会合同会議が2月7日、党内で開催され「稼げる輸出」に向けた第7次提言案が示された。

「稼げる輸出」に向けた第7次提言案では、「食品産業の海外展開」「インバウンドによる食関連消費の拡大」に関して、今後の施策の方向性や新たな政策目標の設定などが盛り込まれている。提言案は次のとおり。

「食品産業の海外展開」については、グローバル・フードバリューチェーン(GFVC)推進官民協議会の下で行われる、セミナーなどを通じた情報提供や官民ミッションの派遣、ビジネスマッチングの促進、海外での投資に関わる案件形成への支援や制度融資の活用などの資金面での支援の充実等の強化、ま

た、有望な輸出先国・地域に設置している輸出支援プラットフォームによる国内の輸出事業者らへの海外現地での支援体制など、輸出に向けて、これまで培ってきた国内外の枠組みを食品産業の海外展開においても有効に活用すべきであると示している。数値指標については、農水省で有識者の意見も踏まえた検討が進められているため、こうした検討の結果を踏まえ、今後の政策目標として、食品産業の海外投資による収益額を位置付けるべきであるとしている。

「インバウンドによる食関連消費の拡大」については、政府においては、輸出以外に、農泊や観光に関する施策を相互に連携させ、わが国の農山漁村の多様な食文化や体験などの資源を磨き上げるとともに、そのストーリーを効果的に海外に発信するため、地理的表示(GI)なども活用しながら、地域の魅力と地域食材をセットにした一体的なプロモーションを展開することで、訪日外国人の農山漁村への誘客増加を図る等、効果的な施策を実施することなどが方向性として示された。新たな政策目標の設定では、今後の政策目標として、観光政策の目標との整合を図りつつ、インバウンドによる食関連消費額を位置付けるべきであるとしている。

全肉連・島根肉連主催の神戸枝肉販売会、6年度5回目を開催

高品質和牛として知られる島根県産和牛「しまね和牛」を産地から消費地で販売していくための取り組みとして、令和6年度食肉流通経営体質強化促進事業(生産者等との連携推進事業)による第5回島根県開催枝肉販売会が6日、神戸市西区の(株)本神戸肉森谷商店センターで開催された。

今回はしまね和牛の雌4頭、去勢16頭の20頭が出品され、兵庫県に事業所をもつ食肉販売事業者が購買。A5等級14頭、A4等級5頭、A3等級1頭で、肉質と歩留まり、モモ抜けに優れた枝肉が多数出品され、完売した。

これらの取り組みもあって、しまね和牛は大阪府、



兵庫県などで知名度を高めており、高い品質が評価されている。主催は全国食肉事業協同組合連合会、島根県食肉事業協同組合連合会。協賛が島根県農業協同組合。

[全国の食肉推定在庫・12月] 全在庫は前年同月比8・7%増

農畜産業振興機構が公表した2024年12月分の食肉等の推定月末在庫によると、全在庫は57万2060t(前年同月比8・7%増)と前年同月を上回ったが、前月比では4・9%の減少となった。

畜種別では牛肉の輸入在庫が12万9801t(10・7%増)となり、前月からは5・1%減。国産在庫は1万694t(15・3%減)となり、前月比では1・6%減となった。牛肉全体の推定在庫は14万495t(8・2%増)となり、前月比では4・9%減となった。

豚肉は輸入在庫が18万5736t(9・2%増)と前年

同月から増加。前月比では4・7%減となった。一方、国産在庫は2万2458t(5・0%増)と前年同月を上回り、前月比でも5・0%増となった。豚肉全体の推定在庫は20万8194t(8・7%増)となり、前月比では3・7%減となった。

また、鶏肉の輸入在庫は13万4940t(16・7%増)と大幅に増加し、前月比では3・1%減。国産在庫は2万9565t(11・9%減)となり、前月からは3・9%減となった。鶏肉全体の推定在庫は16万4505t(10・2%増)となり、前月からは3・3%減となっている。

[2024年12月の食肉の推定在庫]

単位:トン、比率%

区分		7月	8月	9月	10月	11月	12月	対前月比	対前年比	
牛	全在庫	176,302	179,485	180,245	175,733	167,008	156,538	93.7	106.7	
	冷凍品	155,742	161,482	161,887	159,146	150,025	140,233	93.5	108.1	
	冷蔵品	20,560	18,003	18,358	16,587	16,983	16,305	96.0	95.6	
	未通関計	24,304	21,231	24,397	19,425	19,350	16,043	82.9	94.7	
	推定期末在庫	151,998	158,254	155,848	156,308	147,658	140,495	95.1	108.2	
	冷凍品	132,263	140,436	138,274	139,870	130,952	124,437	95.0	109.8	
	冷蔵品	19,735	17,818	17,574	16,438	16,706	16,058	96.1	97.4	
	肉	輸入在庫計	140,727	147,288	144,550	145,078	136,791	129,801	94.9	110.7
		冷凍品	122,107	130,560	128,182	129,844	121,318	114,974	94.8	112.8
		冷蔵品	18,620	16,728	16,368	15,234	15,473	14,827	95.8	96.8
内 国産在庫計		11,271	10,966	11,298	11,230	10,867	10,694	98.4	84.7	
冷凍品		10,156	9,876	10,092	10,026	9,634	9,463	98.2	82.6	
冷蔵品		1,115	1,090	1,206	1,204	1,233	1,231	99.8	105.7	
豚	全在庫	233,671	235,901	238,323	240,303	230,632	220,553	95.6	108.9	
	冷凍品	218,940	222,393	223,324	224,376	216,852	205,762	94.9	109.0	
	冷蔵品	14,731	13,508	14,999	15,927	13,780	14,791	107.3	106.7	
	未通関計	14,915	13,503	15,546	16,997	14,446	12,359	85.6	111.9	
	推定期末在庫	218,756	222,398	222,777	223,306	216,186	208,194	96.3	108.7	
	冷凍品	204,749	209,150	208,521	207,714	202,660	193,617	95.5	108.6	
	冷蔵品	14,007	13,248	14,256	15,592	13,526	14,577	107.8	110.4	
	肉	輸入在庫計	195,529	200,290	201,197	201,922	194,797	185,736	95.3	109.2
		冷凍品	182,019	187,331	187,468	186,835	181,727	171,973	94.6	108.6
		冷蔵品	13,510	12,959	13,729	15,087	13,070	13,763	105.3	117.0
内 国産在庫計		23,227	22,108	21,580	21,384	21,389	22,458	105.0	105.0	
冷凍品		22,730	21,819	21,053	20,879	20,933	21,644	103.4	108.5	
冷蔵品		497	289	527	505	456	814	178.5	56.6	
鶏	全在庫	174,544	178,831	176,434	180,983	178,308	171,211	96.0	110.7	
	未通関計	5,482	5,796	6,762	7,669	8,205	6,706	81.7	121.5	
	推定期末在庫	169,062	173,035	169,672	173,314	170,103	164,505	96.7	110.2	
	肉	内 輸入在庫計	133,594	137,941	136,518	141,112	139,323	134,940	96.9	116.7
		国産在庫計	35,468	35,094	33,154	32,202	30,780	29,565	96.1	88.1
羊	全在庫	5,516	5,100	4,823	4,615	4,098	3,563	86.9	107.3	
	未通関計	419	373	402	320	311	327	105.1	308.5	
	推定期末在庫	5,097	4,727	4,421	4,295	3,787	3,236	85.5	100.7	
	肉	内 輸入在庫計	4,942	4,573	4,288	4,165	3,669	3,122	85.1	98.8
		国産在庫計	155	154	133	130	118	114	96.6	207.3
その他	全在庫	20,623	20,456	20,614	21,408	21,445	20,195	94.2	107.9	
	未通関計	492	420	554	1064	484	628	129.8	99.2	
	推定期末在庫	20,131	20,036	20,060	20,344	20,961	19,567	93.3	108.2	

【食肉家計調査・12月】支出肉類計は1万842円で前年比1・8%増

総務省統計局が公表した昨年12月家計調査報告(2人以上世帯=1世帯あたり・品目別)によると、肉類支出金額は1万842円(前年同月比1・8%増)と5か月連続で前年超えとなった。

生鮮肉への支出金額は8895円(2・4%減)と減少した。内訳をみると、牛肉への支出金額は3090円(2・1%増)と増加したが、購入量は620g(5・2%減)と減少。豚肉も支出金額が3148円(2・9%増)と

増加したが、購入量は1993g(1・4%減)と減少。鶏肉も支出金額が1993円(2・2%増)と増加したが、購入量は1801g(4・5%減)と減少した。そのほか、合いびき肉は支出金額が250円(1・6%増)、購入量は183g(1.1%増)、他の生鮮肉は支出金額が414円(2・7%増)、購入量は184g(0・5%減)。また、加工肉計の支出金額は1947円(0・8%増)となった。

家計調査による肉類支出金額および購入量(全国・二人以上の世帯1世帯あたり・品目別) 単位:円、グラム、%

	肉類計		生鮮肉計		牛肉				豚肉			
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	量	前年比	金額	前年比	量	前年比
5年上半期計	47,782	103.5	38,891	103.7	10,111	98.2	2,881	94.6	16,637	105.1	11,029	98.8
12月	10,646	101.0	8,683	101.1	3,025	98.1	654	100.3	3,060	100.4	2,021	101.3
5年計	98,457	101.9	79,811	102.0	21,449	95.9	5,853	94.4	33,553	103.3	22,041	98.9
6年計	99,326	100.9	80,658	101.1	21,321	99.4	5,529	94.5	33,818	100.8	21,835	99.1
6年1月	8,098	99.1	6,735	99.4	1,752	98.3	452	92.1	2,866	98.0	1,823	97.4
2月	7,844	103.7	6,455	103.8	1,522	97.9	413	93.4	2,808	103.5	1,883	104.9
3月	8,320	106.4	6,807	107.3	1,704	106.8	467	100.2	2,893	104.7	1,921	103.4
4月	7,883	96.4	6,358	95.6	1,602	91.1	450	92.8	2,695	95.7	1,791	95.3
5月	8,297	100.0	6,688	100.3	1,795	97.9	477	92.1	2,742	100.1	1,835	99.1
6月	7,928	102.2	6,366	102.1	1,610	101.4	429	89.6	2,727	101.7	1,804	101.7
6年上半期計	48,370	101.2	39,409	101.3	9,985	98.8	2,688	93.3	16,731	100.6	11,057	100.3
7月	7,728	97.8	6,183	98.8	1,554	94.6	411	86.5	2,724	101.0	1,702	96.4
8月	8,241	102.0	6,601	102.5	1,855	103.1	484	93.8	2,749	102.5	1,707	98.3
9月	7,772	100.5	6,309	100.5	1,644	107.0	481	103.4	2,688	97.6	1,740	97.7
10月	8,119	100.2	6,611	100.2	1,631	100.6	422	97.9	2,850	99.6	1,774	95.9
11月	8,254	100.5	6,650	99.8	1,560	91.0	457	102.7	2,927	102.3	1,856	100.4
12月	10,842	101.8	8,895	102.4	3,090	102.1	620	94.8	3,148	102.9	1,993	98.6

	鶏肉				合いびき肉				他の生鮮肉			
	金額	前年比	量	前年比	金額	前年比	量	前年比	金額	前年比	量	前年比
5年上半期計	9,133	108.2	8,902	98.7	1,524	103.5	1,099	97.9	1,488	101.6	742	98.8
12月	1,950	105.2	1,885	109.0	246	104.2	181	105.8	403	109.8	185	103.4
5年計	18,558	106.8	17,949	99.1	3,055	103.0	2,207	100.1	3,195	103.8	1,568	97.6
6年計	19,033	102.6	18,643	103.9	3,339	109.3	2,380	107.8	3,147	98.5	1,559	99.4
6年1月	1,608	103.1	1,501	100.7	259	106.6	190	108.0	250	94.0	141	88.7
2月	1,605	108.8	1,584	113.0	252	102.9	183	104.0	267	114.1	137	116.1
3月	1,650	109.2	1,614	107.8	296	117.9	217	124.7	264	117.3	153	137.8
4月	1,539	98.3	1,509	96.0	287	112.5	199	105.9	234	92.5	123	101.7
5月	1,585	103.6	1,569	105.7	311	113.9	225	112.5	256	87.4	118	93.7
6月	1,524	102.1	1,568	107.8	283	110.1	204	110.3	221	101.8	108	100.9
6年上半期計	9,511	104.1	9,345	105.0	1,688	110.8	1,218	110.8	1,492	100.3	780	105.1
7月	1,411	99.2	1,385	101.8	297	113.4	212	115.8	198	83.9	106	97.2
8月	1,427	101.1	1,399	102.6	293	113.6	201	104.7	276	94.2	103	71.0
9月	1,467	98.7	1,526	107.2	282	107.6	200	103.1	228	97.0	135	102.3
10月	1,595	100.5	1,584	105.5	279	106.1	198	107.0	257	96.6	119	93.0
11月	1,629	103.8	1,586	105.2	251	104.1	168	97.1	282	102.9	142	106.8
12月	1,993	102.2	1,801	95.5	250	101.6	183	101.1	414	102.7	184	99.5

	ハム				ソーセージ				ベーコン			
	金額	前年比	量	前年比	金額	前年比	量	前年比	金額	前年比	量	前年比
5年上半期計	2,046	98.5	1,046	95.2	3,871	103.3	2,659	98.8	1,316	102.3	761	98.8
12月	699	101.3	334	99.4	720	100.1	482	94.3	247	100.8	137	95.1
5年計	4,750	99.8	2,375	96.7	7,876	102.0	5,304	97.5	2,590	99.1	1,455	93.7
6年計	4,690	98.7	2,274	95.7	8,003	101.6	5,228	98.6	2,524	97.5	1,353	93.0
6年1月	317	101.3	160	97.0	611	98.9	401	97.6	197	92.9	108	86.4
2月	291	101.7	145	98.6	631	101.8	411	97.9	204	98.1	115	98.3
3月	330	100.0	172	97.2	684	105.6	440	97.8	222	98.2	115	88.5
4月	329	99.4	159	96.4	683	101.5	448	91.4	223	94.1	127	89.4
5月	378	102.7	191	102.1	685	99.3	460	96.2	218	95.6	120	92.3
6月	416	99.5	209	102.0	653	105.0	421	102.7	215	104.9	118	100.9
6年上半期計	2,061	100.7	1,036	99.0	3,947	102.0	2,581	97.1	1,279	97.2	703	92.4
7月	434	92.3	217	90.0	626	97.1	409	96.9	200	102.0	109	100.9
8月	422	94.2	206	93.2	669	101.7	450	104.4	202	101.5	104	90.4
9月	343	100.3	170	98.8	634	100.8	433	104.8	204	100.0	108	100.0
10月	339	99.7	155	93.4	680	99.0	428	93.7	199	92.6	103	93.6
11月	443	109.1	215	113.2	682	102.2	449	102.5	208	96.7	108	93.9
12月	648	92.7	271	81.1	764	106.1	480	99.6	232	93.9	119	86.9

全国食肉センター協議会、令和6年度経営者セミナーを実施

全国食肉センター協議会は6日、東京都品川区のニューオータニイン東京で令和6年度経営者セミナーを開催した。冒頭、同協会の北村裕司副会長理事(上写真)は「厳しい状況ではあるが、どの業界でも同じこと。大事なのは、どのように知恵を出し、喫緊の課題、長期的な課題に取り組むかということだ。そういった意味でも、本日の講演は貴重な時間となる」とあいさつした。

セミナーでは、全国農業協同組合連合会畜産総合対策部の佐藤大二郎次長が「和牛消費拡大に向けた施策展開について」と題して講演。まず情勢認識については、和牛枝肉相場が2022年以降下落しており、繁殖経営体はとくに厳しい経営状況にあると指摘。一方で生産量は多く、5等級の発生率が飛躍的に向上した。その中で、JA全農は令和6年度、消費喚起や輸出拡大のため、JAタウンと連携したキャンペーンの展開、「食ベログ」での和牛特設ページの開設、米国での和牛PR、国産国消イベントでの和牛肉提供などに取り組んでいる。

また令和7年度に関しては、情勢に大きな変化はなく、取り組みの軸は変わらない。物価高で消費者の生活防衛意識が高まっており、ぜいたく品ともいえる和牛の消費を促すのは簡単ではなく、販売する上では“どの的にどの矢を射るのか”が重要となる。その中で注目されるインバウンド市場では、外国人観光客に和牛を食べてもらい、自国でもその味を思い出してもらうような、インバウンドと輸出の好循環に向けた取り組みにも注力したいとしている。統計上でも、訪日外国人の目当てで最も多いのは「日本食を食べること」であり、中でも肉料理の満足度は高く、特に中国や台湾などで高い数値を記録している。同氏は「打つ手がみえてきた際には、皆さまと情報を共有し、共に和牛市場を盛り上げていきたい」と締めくくった。

続いて、農水省畜産局食肉鶏卵課の香川仁志課長補佐による、「わが国の食肉流通をめぐる情勢について」をテーマとする講演が行われた。食肉消費量の伸長が続く状況下、牛枝肉重量やBMSの数値は上昇しており、格付はA5ランクの割合が高まっている。



他方では物価高騰などに伴って和牛肉の需要は軟調に推移しており、農水省は需給状況を改善するため、販売促進やインバウンド向けの需要拡大の取り組みなどを支援している。

そのほか、労働力不足、施設の老朽化などによる経営状況の悪化が課題となっている食肉処理施設にも言及しており、食肉の流通合理化のため、再編整備を推進するとしている。①施設の再編・合理化②輸出対応型施設の整備③基幹施設の整備④浄化槽・冷蔵設備などの改修に取り組んでいく。

農水省は今後、牛肉生産における環境変化への対応に向けて近代化を図り、新たな計画を立てていく。牛肉の需要に応じた生産の推進による需給ギャップの解消、従来の生産手法の見直しを含む生産コストの低減および生産性の向上、国産飼料の生産・利用の拡大を通じた輸入飼料依存度の低減、環境負荷低減などの取り組みを推進する。

それぞれの講演の後には出席者からの質問が上がったり、見解が述べられたりするなど、情報を交換。活発に意見が交わされる場となった。

神戸食肉青年会が令和7年新年会を開催、新入会員の加入を報告

神戸食肉青年会(岸本七江会長)は4日、神戸市中央区の「とけいや」で令和7年新年会を開催。冒頭、岸本会長は「京都に比べると若い世代の入会が少なく、全体的に年齢が上がっていたが、このほど新たに入会者が加わり、事業推進に活気が出てくると期待している」などとあいさつした。

新規入会者、来賓の紹介が行われた後、来賓を代表し神戸食肉事業協同組合の辰己真一理事長が「親組合の諸事業の推進に当たり、青年会の皆さんには感謝している。ただ、青年会の定年が60歳ということだが、これについては再考を促したい。昔は40歳定年だったため、『若いから失敗しても仕方がない』といわれた。今はそうではない」

「兵庫県食肉事業協同組合連合会、神戸食肉事業協同組合、神戸食肉青年会はそれぞれを下から構成する役割がある。青年会は先鋭的な取り組みを



行いフィードバックする、親組合は各事業を通じて安全・安心な食肉を市民に提供するため組合員全体の底上げをする。そういったことを念頭に置き、自覚を持って取り組んでいただきたい」と祝辞を述べた。

続いて西支部の高橋博之支部長が乾杯の音頭を取り懇親に。和やかな雰囲気の中、竹中慶子副会長による一本締めで散会した。

【組織改組・人事異動】スターゼン(4月1日付)

〔組織改組〕財務経理本部事業会計部を廃止し業務を経理部に移管する。

〔人事異動〕経営本部副本部長(経営本部経営企画部長兼リスク管理部長)藤井啓次郎▷経営本部経営企画部長(経営本部経営企画部経営企画室長)齋藤亮介▷経営本部リスク管理部長(管理本部総務部長)下野貴之▷管理本部総務部長(経営本部特命担当部長)廣島英明▷執行役員財務経理本部長(執行役員財務経理本部長兼財務部長)森上倫輔▷財務経理本部財務部長(財務経理本部事業会計部長)初野和也▷財務経理本部業務管理部長(財務経理本部業務管理部副部長)山本八幸▷財務経理本部業務管理部特命担当部長(財務経理本

部業務管理部長)藤本幸一▷財務経理本部業務管理部特命担当部長(㈱キング食品出向取締役経営管理部長)菖蒲沢克広▷(株)丸全出向取締役総務経理部長(財務経理本部業務管理部特命担当部長)塚田浩章▷品質保証本部品質保証部兼ローマイヤ(株)品質管理部長(ローマイヤ(株)出向取締役品質管理部長)原理洋▷ローマイヤ(株)常務取締役(ローマイヤ(株)取締役那須工場長)坂口秀幸▷ローマイヤ(株)取締役経理総務部長(ローマイヤ(株)経理総務統括部長)徳野祐治▷(株)キング食品専務取締役(株)キング食品常務取締役)永山一郎▷(株)キング食品出向取締役経営管理部長(経営本部リスク管理部副部長)谷道彦

マルイチ産商グループが丸水長野県水畜産事業部を吸収分割、事業承継

マルイチ産商は、2023年5月と24年5月に発表した同社グループ内の組織再編について、6日開催の取締役会で、4月1日を効力発生日として、子会社の(株)

丸水長野県水の水畜産事業部を吸収分割し、マルイチ産商が同事業部の販売事業を、子会社の大信畜産工業(株)が製造・加工事業およびそれに付随する販売

事業をそれぞれ承継することを決議した。

マルイチ産商は、グループ内に同一形態の会社が存在することで発生している非効率性の解消に向け、同社グループの経営資源を集約し、合理化と効率化を図ることで長野県内における経営基盤を強化することを組織再編の目的としている。この吸収分割により、グループ内の畜産事業を組織再編し、畜産物の販売事業をマルイチ産商に、製造事業を大信畜

産工業に集約することで、経営資源の集約による事業の合理化と効率化を図る。加えて、丸水長野県水の畜産事業部が強みとする製販一体の収益モデルを大信畜産工業が承継することで、さらなる製造・加工機能を強化する。これらの推進により、同社グループ畜産事業の新たなビジネスモデルを確立させ、収益力の向上と次なる成長を実現するための事業基盤の構築を目指すとしている。

【東京食肉卸売市場】牛・豚ともにもちあい

[牛] 前週、和牛は堅調、交雑牛は強もちあい。月初の補充もあり、和牛は良いものは値が伸びやすくなっている。また、大雪で北海道、佐賀など産地からの出荷が中止された影響等もあり、ゆっくり相場を上げ、週中ごろには和牛去勢は1月末から約100円高となった。

部分肉の荷動きは穏やか。厳しい寒さが続いていることから、鍋物需要で切り落としなどスライス物中心に動いており、モモは量販店中心に好調。ヒレは和牛・交雑牛共に鈍くなっている。GW向けで冷凍ロースなどの問い合わせが出ているよう。

今週、東京市場の上場は平均400頭を予定。和牛去勢A5は2400～2500円、A4は2200～2300円、A3が2千～2100円、交雑牛去勢はB4が1600～1700円、B3が1550円前後、B2が1350～1450円のもちあいか。

[豚] 前週は全国的に厳しい寒波となり、一部では大雪の影響による出荷や物流への影響もみられた。また、豚熱など疾病の発生もみられ、出荷頭数は日によってバラツキがあるものの、全国と畜頭数が6万頭台前半となる日も。

一方、末端消費については、基本的に不需要期であり、野菜なども高騰している中、消費者の家計防衛意識は強い。それでも寒さが厳しくなる中、鍋物需要の増加などに加え、受験シーズンで“カツ”の消費拡大も期待される。

枝肉相場は上物価格600円台でもちあう底堅い展開で推移しており、この時期としては異例ともいえる高値が続いている。為替の状況や鳥インフルエンザが多発していることもあり、豚への需要は比較的堅調だ。

今週も600円絡みのもちあいか。

【大阪市食肉卸売市場】牛全般にもちあい、豚は当面堅調展開続く

[牛] 閑散期ではあるが、それを見越して生産者も出荷抑制を行っていることから、大阪市場の上場も少なめとなっており、和牛、交雑牛共に相場は比較的堅調に推移している。

年明けでニーズ自体は弱いものの、閑散期で2月中は集荷が多くないとみられ、和牛、交雑牛共に、この先も一定の価格を維持するとみる。このため今週は和牛、交雑牛共にもちあい。内容が良いものについては

しっかりした価格が付きそうだ。

[豚] 年が明けて、一時的に相場が下落したのもつかの間、豚枝肉価格は500円を上回り、中には600円を超える日もあるなど、再びかなりの高値相場となった。

この堅調な価格は当面続くものとみられ、今週も550円程度になると予測する。今年も高値相場となりそうだ。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 2月7日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1		
和牛	雌 A	高値	3,135	2,900	2,168	-	-	
		安値	2,226	2,273	1,909	-	-	
		平均	2,544	2,379	2,059	-	-	
	55頭	頭数	42	11	2	-	-	
	雌 B	高値	-	-	-	-	-	
		安値	-	-	-	-	-	
		平均	-	-	1,620	-	-	
	1頭	頭数	-	-	1	-	-	
	去 A	高値	3,334	2,487	2,236	-	-	
		安値	2,269	2,160	1,997	-	-	
		平均	2,631	2,309	2,142	1,818	-	
	172頭	頭数	127	41	3	1	-	
去 B	高値	-	-	-	-	-		
	安値	-	-	-	-	-		
	平均	2,225	-	-	-	-		
1頭	頭数	1	-	-	-	-		
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-		
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-		
	去 B -頭	平均	-	-	-	-		
	去 C -頭	平均	-	-	-	-		
交雑牛	雌 B	9頭	平均	-	1,634	1,546	1,297	-
		頭数	-	3	4	2	-	
	雌 C	1頭	平均	-	-	1,470	-	-
		頭数	-	-	1	-	-	
	去 B	28頭	平均	1,740	1,611	1,607	1,445	-
頭数		2	6	18	2	-		
去 C	4頭	平均	-	-	1,498	1,373	-	
頭数	-	-	2	2	-	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	385 337	1,085 1,000	- 177.0	(競り)	(相対)	
				-	24	64

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,570	1,869	1,543	1,415	-
	B	-	-	1,481	1,291	-
和 去	A	2,385	2,171	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	889	862
	C	-	-	-	901	825
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	1,144	-
交 雌	B	1,724	1,606	1,558	1,415	-
	C	-	1,502	1,416	1,320	-
交 去	B	-	1,642	-	1,363	-
	C	-	-	1,536	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	16,260	886	810	650	594
	安値	617	605	572	525	519
	平均	1,719	634	617	591	563
	頭数	(70)	(499)	(357)	(67)	(7)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
搬入 相対	高値	-	699	677	-	454
	安値	-	699	677	-	130
	平均	-	699	677	-	358
	頭数	(-)	(4)	(2)	(-)	(18)

[大阪食肉卸売市場] 2月7日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,728	2,229	-	-	-
(頭数)	(17)	(2)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,817	2,321	-	-	-
(頭数)	(78)	(3)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,890	-	-	-	-
C	-	1,671	-	-	-
交雑去 B	1,911	1,767	-	1,592	-
C	-	1,730	1,613	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	2月7日	2月6日	(2月累計)
豚	66,600	65,500	333,000
成牛計	4,280	4,000	22,120
和牛雌	970	880	5,060
和牛去勢	840	1,100	5,840
乳牛雌	800	720	3,450
乳牛去勢	330	550	2,630
交雑雌	640	340	2,390
交雑去	690	410	2,740

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 2月7日

	2月7日	(前日)
東京	1,555円	1,482円
大阪	1,593円	1,614円

[豚・全農建値] 2月7日

上	中	取引頭数	市況
629円	608円	1,170頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 51頭 牛 128頭	豚 166頭 豚 48頭	牛概況 豚概況	強含み まちまち
----------	-----------------	-----------------	------------	-------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 2月7日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	605 (605)	- (-)	5,973	-	もちあい
仙台 [中]	588 (559)	502 (529)	455	92	続伸
宇都宮 [地]	650 (643)	622 (596)	1,662	56	反発
茨城 [地]	625 (629)	602 (603)	1,239	676	弱もちあい
群馬 [地]	635 (651)	509 (538)	2,023	556	続落
さいたま [中]	618 (642)	599 (619)	203	197	反落
東京 [中]	634 (638)	617 (618)	1,085	1,000	弱含み
横浜 [中]	637 (624)	608 (600)	640	644	反発
山梨 [地]	- (623)	- (568)	75	9	休市
浜松 [地]	577 (573)	539 (542)	311	34	強もちあい
名古屋 [中]	586 (565)	542 (543)	967	223	上伸
京都 [中]	561 (577)	570 (557)	40	76	もちあい
大阪 [中]	- (591)	- (558)	166	-	上場なし
神戸 [中]	602 (663)	587 (642)	-	54	下押し
岡山 [地]	680 (657)	652 (667)	359	280	強気配
広島 [中]	598 (-)	563 (-)	197	78	もちあい
福岡 [中]	591 (585)	558 (556)	587	98	反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月31日~2月6日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,737,952 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,165	1,287	1,310	1,260	76,039
うで	713	778	831	777	126,727
ロース	1,080	1,142	1,203	1,140	164,194
ばら	1,173	1,228	1,318	1,225	145,172
もも	734	783	819	777	185,399
ヒレ	918	1,069	1,231	1,084	12,073
セット	945	1,024	1,128	1,024	1,028,348

◇近畿圏 総重量 833,998 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,134	1,252	1,320	1,257	65,227
うで	702	724	745	727	135,790
ロース	1,058	1,176	1,212	1,161	114,955
ばら	1,170	1,225	1,247	1,223	154,296
もも	702	726	761	730	183,313
ヒレ	1,121	1,188	1,247	1,197	11,330
セット	902	972	1,105	972	169,087

[食鳥正肉日経相場] 2月6日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	705	746	869	149
ムネ	363	395	500	129

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	706	760	1,030	8
ムネ	364	412	590	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 2月6日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,015	619	550	600	650
安値	735	387	290	360	350
平均	777	415	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

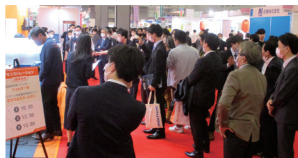
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする

食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します